日本経済論（第15回）　　16．9．27

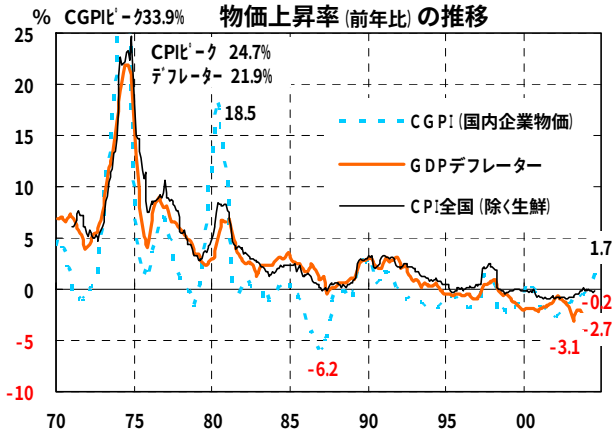
― 日本の物価　　（安孫子）

1．参考資料

・「消費者物価指数年報」、総務省統計局、各年版（http://www.stat.go.jp/data/cpi/index.htm も利用可能）
・「物価レポート」、経済企画庁、1975～2000 年

2．**消費者物価指数**（CPI＜Consumer Price Index＞）

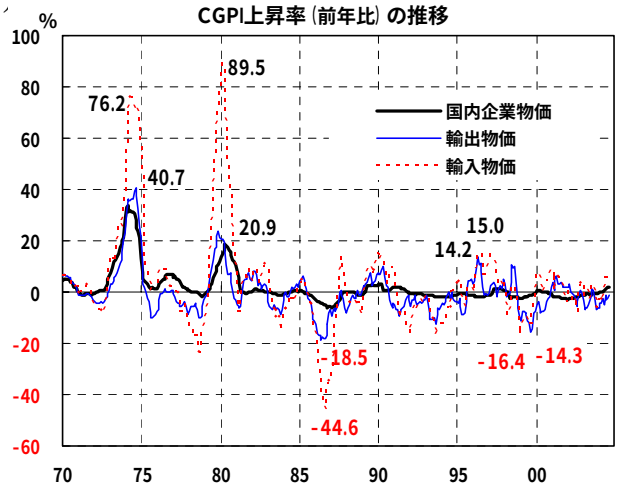
・総務省統計局が作成：**全国**と東京（速報）が有名
・**ラスパイレス型**で算出（基準時加重相対法）
・最新版 598 品目：基準改定時に品目等を見直す
　― 「**平成 12 年基準**消費者物価指数」が最新版
　― 2003 年 1 月にも 2 品目を追加
・「除く生鮮食品」が注目される ← 生鮮食品の振れ大
　― ウェイト：生鮮食品 4.5%など食料 27.3%、住居 20.3%、交通・通信 13.1%、教養娯楽 11.3%、光熱・水道 6.5%
・厚生年金支給額（2000～02 年には不適用）などが連動
　― 現在では、日本銀行の金融政策でも注目



資料：日本銀行、内閣府経済社会総合研究所、総務省統計局のHP

3．**企業物価指数**（CGPI＜Corporate Goods Price Index＞）

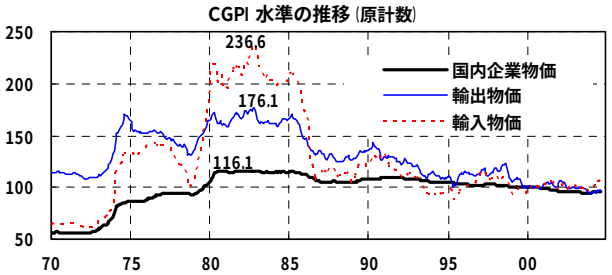
・日本銀行が作成：2002 年 12 月から名称を変更
　― 従来：卸売物価指数（WPI＜Wholesale Price Index＞）
・最新版 1,407 品目：現在は **2000 年基準**
　― 国内企業物価 910 品目、輸出物価 222 品目、輸入物価 275 品目。国内企業物価の 91.9%が工業製品
・大きく振れる輸出物価・輸入物価（円ベース指数）
　― 為替相場の変動（特に外貨建て貿易の場合）や交易条件の変化を反映したもの
　― 輸入物価では石油・石炭・天然ガスのウェイト 22.1%
・**国内企業物価は相対的に安定**：ピーク比▲17%程度
　― 輸出物価はピーク比▲44%、輸入物価は同▲55%



資料：日本銀行のHPより作成

4．**GDPデフレーター**

・「名目 GDP／実質 GDP」で計算されるもの
　― **パーシェ型**の価格指数（⇔ラスパイレス型の数量指数）
　― ウェイトは GDP の各項目の数量（各時点）
　　⇒ 工業製品や消費財に偏らないのはメリット
・四半期データと年（度）データ：**季節性**が窺える
　― 計数発表に時間がかかるほか、改訂の可能性も
・CPI と似た動きをしていたが、最近では乖離？
　― どちらでみるかで、デフレへの認識が変わる？

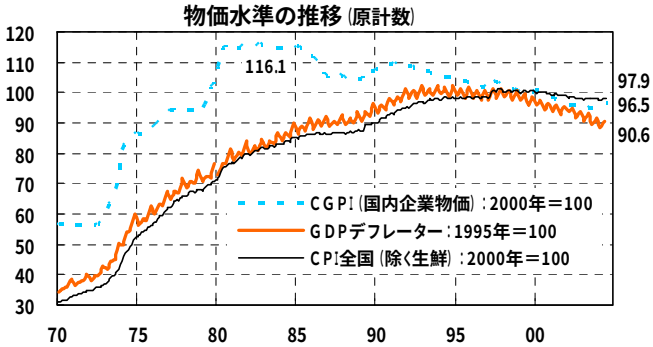


資料：日本銀行のHPより作成

5．経済理論と物価

・「相対価格」と「一般物価」の違い
　― 相対価格の変化とは異なる筈の一般物価の変化
・フィリップス曲線と貨幣錯覚の議論
・変動相場制下での内外価格差の持続
　― 購買力平価からの乖離が長く続いているのは？
・消費者物価の正確性を巡る議論
― 高目の数字がでるバイアス？←安売店の扱いなど

以上



資料：日本銀行、内閣府経済社会総合研究所、総務省統計局のHP

仮のホームページを開設　　http://www.shok.kindai.ac.jp/abiko/　　経済学部サイト立ち上げまでの暫定版